

# 2022年度GTセミナー 第56回保育環境セミナー 人的環境編③

第306号 2023年1月9日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

## 人的環境編③

2022年12月12日～14日に「第56回保育環境セミナー」  
(人的環境編)を開催しました。

オフライン参加は約100名、オンライン参加は60施設を超える  
お申し込みを頂きました。今回は、藤森代表から「人的環境」につ  
いて考え方をお示し頂きました。

本誌含め、4回に分けて人的環境編をお送りする第3弾です。

### 【セミナー開催趣旨】

乳幼児教育は、その時期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることが基本です。たとえば、赤ちゃんにハイハイをさせようと思ったら、その手順を教えるのではなく、自分から移動したいという動機(欲しい「もの」が前方にあるとか、抱かれない「ひと」が少し先にいるとか)を持たせ、そこまで行くための距離「くうかん」が必要になってくるのです。そこには、もの、ひと、場(空間)が関わってくるのです。そのために保育者は、乳幼児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、子どもが自発的、意欲的に関われるように、物的・空間的環境を構成しなければなりません。

そこで子どもは、それまでの体験を基にして、環境に働きかけ、環境との相互作用を通して、豊かな心情、意欲及び態度を身に付け、新たな能力を獲得し、心身を発達させていくのです。

今年環境セミナーでは、「くうかん」「もの」「ひと」という環境について具体例を通して基本から学んでいきます。

ギビングツリー代表 藤森平司(新宿せいが子ども園 園長)



2022 第56回  
保育環境  
セミナー

今、子どもに必要な  
保育の「考え方」と  
「環境」を学ぶ。

空間的環境編 7/4、5、6	物的環境編 9/5、6、7	人的環境編 12/12、13、14
くうかん	もの	ひと

保育環境セミナーは全編3日間の日程です

1日 視見学 + 2日 講演・実証発表 + 3日 視見学

---

## 第56回保育環境セミナー Q&A①

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

---

今回、オフラインでセミナーにご参加頂いた皆様から寄せられた質問について、ギビングツリー代表の藤森平司先生に考え方を示して頂きました。

### —はじめに—

私には3つの顔があって、一つがGT代表として一つのメソッド、カリキュラムの保育を研究し提案をする。時代を考えたり、人間の在り方などを考えて、どんな保育がこれから必要なのかを考えるのが、GT代表としての役割です。その理念に沿って、現場でどう展開していくかが新宿せいが子ども園園長としての役割です。GTで考えた藤森メソッドの考え方を、現場でどう実現していくかが園長としての役割です。大それていますが、モンテッソーリをする園があった時に、その園がモンテの代わりをしようとしているわけではないです。モンテの考えた保育を、自分の園なりに展開を園長をするわけですから。昨年、STEM フェスティバルという実験の夕涼み会をしました。見学者から「そのアイデアは誰が出したのですか？」と聞かれました。一緒にいた職員が、「うちの園長です」と言ったので、私は「それは違います。園長ではなくて、職員の一人として得意だから私が分担しています。園長ではなく、職員の中で、それぞれ得意分野があり、その一人として提案した」と言った。園の中では、私が役割を持つことがあり、ある年は立て看板を作るとか、お誕生カードの挿絵を描く。それは園長として描いているのではなく、職員の中でそれが好きだから受け持っている。世の中の園長は、カリキュラムも作り、実践し、絵も描かないといけないと思うかもしれないが、そんなことはない。園長としては、どう実践するかがあるが、もっと具体的におむつを替える時にどうするか？離乳食をどんなものを出しているか？等は、園長はそこまで関わっていないので、本当は答えられない。私は細かいことは口を出さないようにしています。それはリーダーシップ論にあるが、リーダーとしてあるべき姿は、職員を信じることがあるので、職員を信じるわけですから、細かいことに口出しをしない。大きく目指すべきものが違っているときは言うが、そうでないときは、私がたまたま違っているなどと思っても、あまりに口には出さないです。実際に保育をするのは保育者たちだからです。これは夫婦関係でもそうですが、妻に2、3日前に言われました。妻が私に、育児に対して、とやかく言わなかったことを感謝していると言われました。私が子育てのことを話しているから、ありそうだが、我が子の子育てに対しては、妻に全面的に任せています。私が子育ては出来ないので、妻がしているのがほとんどなので、方向が違ったらもちろんいうが、例えば、娘と息子がいるが、二人の子どもを継がせようとしなかったことに感謝された。別に継がせたくないとか、そういうことではなく、本人がやりたいなら構わないけど、向いていなければ、無理やり継がせようと思っていなかったが、妻に感謝されました。親がやっているから継がせることほど不幸はないと、考えが一致するように、妻を信頼して、妻にある意味任せています。保育も職員に任せています。保育者は毎日接して子どものことをよく分かっているわけです。知っているうえで、そういう行動をするので、今回の事件にあるような、暴力をふるうとかは、今回の暴力が表沙汰になったものがあるが、それ以上に私が心配するのは、言葉の暴力です。子どもにすごく影響します。そういうことがあったら許されることではないので、信用していようが、いないか関係ないです。良くないことは、絶対的に良くない。そうでなくて、例えば、給食を私は好き嫌いをしていいと思っています。うちの職員がたまたま、子どもに、「ちょっとでもいいから、食べてみたら」と言っているのを見たとしたら、基本を知っているけど、知っているうえで声をかけているのなら、声をかけられた方が食べるのだろう、だからあえて声をかけているのだろうと思うようにしています。子どもによって違いますからね。職員に注意をされたことがあって、見学者がいるいるな質問を受け、普段私が言っていることと、現場が違うとついてくることがあります。ある時、折り紙を子どもが「ちょうだい」と言ったら「2枚だけだよ」と言っていたと。「藤森先生は、枚数を制限しないで、子どもが使いたいだけ、使わせた方がいいと言っていたが、職員が制限していた。どうしてですか？」と聞かれた。一瞬焦りますよね。そんなこと言っているのだと。とっさに言ったのが、「職員に何か考えがあったのではないんですか」と言ったが、後で職員に枚数制限しているのと聞いたら、「折り紙を使わせているときも、私たちは意図を持っています。今週の意図は、子どもたちに見通しをつけさせようということで、2枚なら何を折れるかを考えさせいるからで、2枚での見通しを持たせるための確

認をただけだ」と聞いた時に、「良かった、注意しなくて」と思った。先生たちに日々意図がある。その意図を細かく聞けないので、全体的に信じるようにしています。職員同士もそうです。345歳のリーダーの先生が前にいます。全体を仕切り、後ろで横を向いたりする子たちを注意するのをサブとします。リーダーが前で話していたら、後ろの方でおしゃべりをしている子がいた。サブの先生が注意するところを、ふとこう思ったそうです。「何をしゃべっているのだろう？」と興味を持った。気づかないふりをして、話を聞いたらしい。その子たちは、「トマトのにおいがしない？給食はミートソースかな？」と話していた。サブの先生は、この話は大事だと。において想像するのは、先生の話聞くことよりいいだろうと特別に注意しなかったことを、リーダーの先生も、それを信じないといけない。「なんで注意してくれないの！」と思ったら、何か意図があるのだろうと思わないといけません。お互いが一生懸命考えていることを認めてあげること。私が保育室の中を歩いても、見学者がいても、職員は普段と変わらないですね。その日だけの出来事に対して言われなくていいから。それが今危険なのは、ああいう虐待があると、監視カメラをつける。職場からいつでもライブで観れるようにする。見えるようになると、安心したという親がいるとニュースが流れると、困るのが切り取られたその場面だけ見て、それに対してどうだと言われたら、保育は出来ない。保育はそれまでのいきさつがある。先生なりに考えて、させて、その場面があるので、その場面だけ見て、怒っていると言われたら、保育は出来ない。私はライブは好きではないとか、つけない。後で録画をして検証するためには部屋についているが、ライブで常にみられて、泣いている、知らん顔されているではなくて、その前に何かある。ですから質問をされても現場のことはなかなか分からないので、実践発表をした安藤先生がいますので、彼に答えてもらいます。

## 【保育環境】

Q1.大人がどのような関わりをもてば、せいがさんのような整った保育室になれるのでしょうか？

大人がどのような関わりをもてば、せいがさんのような整った保育室になれるのでしょうか？

「隣の芝生は青い」ではないが、人の園だからきれいに見えるんでしょうね。たぶん、これを書いた園も、他の人が見たら整っていると思っているんじゃないでしょうか。言えるとしたら試行錯誤ですね。検証し合う。ベルギーの保育に、子どもが集中していない時まず検証するのが、まずコーナーがその場所でいいのかを検証する。図書ゾーンが、読み込める場所なのか、まず空間の環境を見直す。その次に置いてあるものを見直す。子どもの興味・関心のあるものがあるか、発展するものがあるかの物の環境を見直す。そして3つ目が関わりです。人と環境。そうやって順に作りこんでいきます。まずうちは1月から移行をはじめます。次の年に慣れるように、順に移行していく中で、3月になると次に行くクラスで保育をします。逆に年長さんが追い出されて、廊下などに物を置くようになります。そうやって慣れていくので、3月にどこに、何があるかを子どもたちは学んでいきますので、3月末で終わって4月1日になって模様替えはしません。せっかく移行をして、新しい環境を知っているのに3月末に環境を変えてしまったら、意味がないので、うちは3月31日も4月1日もいつも通り始まります。荷物の入れ替え、ロッカーの写真の入れ替えも3月中に入れ替えています。新入園児だけ4月です。その他は3月中に移行をしてしまいますので、模様替えもしません。新しく入った子によって、集中する場所が違って来る可能性があります。電車が好きな子がいると、ブロックで電車を作り始めるとか、盛り上がるとか、何かが好きだと盛り上がるとかのマイナーチェンジは、6月くらいに子どもの様子を見て変えます。そして、それを大きく変えたい場合は、担任だけの思いだけではなく、全ての先生に集まってもらって、プレゼンをして全職員が合意の上で換えます。例えば、1歳児にジャングルジムが必要だと思って、全員集めて、みんなが合意しないと、次の年これは邪魔だからいりませんと言われると、担任によって変わってはいけませんので、全員が賛成しないとしないです。変え方も、担任から提案しないで、他のクラスから提案することもあります。1の部屋はここをこうしたら？と提案して、合意することもあります。ゾーンの場所などを替える場合には、全員の合意を取って、替えます。ゾーンとしては変わらないけど、その中に置く中身は、担任が

子どもの様子を見て変えていきます。制作も4月は塗り絵を多くするか、落ち着いたから、大きな制作できるように廃材を置くとか、その時によって変わります。その他の装飾、何かを貼る、植木を置くなどは街へ出て、現金で1万円以内とかあるが、買ってきてあと、清算で購入希望を書いてもらってとかすることも。これ1歳児の部屋にいいなと思ったら、担任じゃなくても勝手に装飾をしています。自分の部屋というものがないです。みんなの部屋なので、みんなが心地いいような装飾をするのが理想です。そういうことを繰り返すと、心地よい保育室になるのではないかと思います。感心したエピソードがあって、ゾーンは、子どもが何かをしたい、絵を描きたい、道具はあそこに行けばあるそれが制作ゾーン。やりたいことが実現できるものがある。使う時は、他の場所でもいいんですね、本を読みながら制作をしてもいいが、本を探しに行くなら本の場所に行くので、元に戻さないとならないからゾーンがあるが、01は何がしたいが先にあるのではなくて、見たものをやりたくなる。0はなるべく、おもちゃを散らばせておくと興味を持つ。そこに散らばすものを1日一回入れ替えるとか、午後は別のものを出すとか、1歳児もそうです。見立て遊びなので散らばす。その中で2歳はゾーンの感覚になってきます。ブロックゾーンにブロックがあるとか、そのために1月くらいから移行を始めるので、あるとき先生が1歳は雑然とあるなかに、なんとなくここでブロック、ここで絵本を読むなどしたそうです。ブロックをするならこの辺でと少しゾーンの移行をしたそうです。ブロックをここでやるんだよと言ったら、ある子は、「ここじゃなくて、あっちの方がよくない?」と言ったそうです。先生は何でここかの理由を1歳に説明したそうです。「ふーん、じゃあ、ママごととはこっちの方がいいんじゃない」と言ったそうです。本当は子どもが作っていくことも大事です。整った保育室には子どもたちが意見を言えるようになるといいと思いますね。

## 【保育環境】

**Q2.昨日の午後園見学をさせて頂きました。16時半になると鐘の合図で子どもたちが片付けをはじめて帰りの会を2グループに分かれてされていました。私の園ではおやつ後お帰りの支度が終わり次第、帰りの会が始まります。1度遊ぶ時間を1クッション入れる意図はありますか?自園では話をなかなか聞けない子どもたちが多く、遊びを途中で1度切り上げる事もとても難しい現状です。**

私は保育の中でPlan do seeは賛成してなくて、Do see Plan。子どもの活動を見て、検証をして、プランを立てるべきと思っているんですが、子どもの中はPlan do seeで、アメリカのハイスコープが重視しています。子どもが今日何をしたいかプランを立てるPlanが朝の会で、子どもに動機づけをして、帰りの会がSee振り返りと言われていて、ハイスコープでは、朝の会とお帰りの会が重要と言われています。子どもによるPlan do seeと位置付けています。うちの園は、18:30以前に帰りません。あまり早くお帰りの会すると人数がすごいんですね。お帰りの会は、うちは遅番との交代の時間帯です。お帰りの会をして帰る子と、遊びに入る子。あまり早いと、遅番の先生に変わるタイミングということがあります。その時間帯になっています。多分、振り返りをしていたと思いますが、Seeの時間帯です。話を聞けないのは、遊びを入れようが入れまいが、聞けなければ同じかもしれないが、うちは割と聞いていると思うが、バラバラ集まってきて、最後に全員が集まって、午後の先生は本を読み始めて、最後揃って、午後はどこを開けて閉めようかを話して、夕方の保育が始まります。1日の流れの中で、子どもがどのへんで減るかもあると思います。昔だと16:30とか17時とかに減っていたので、お昼寝起きて、すぐお帰りの会をしていたが、今は遅いのでうちの園はこの時間になっています。

安藤：実感をするのは、遊びは流れというか、盛り上がり、ちょっと盛り下がるというか、散るときがあると思うが、このペースでやっているのと落ち着くまで15分くらい。このパターンで行くと、集中して遊べて、そろそろ

片付けだなという感じになるので、遊びのパターンのいいのかなと。子どもたちも見通しをもってやるので、そろそろ片付けだとやるので、ワンクッションの時に、伝承コーナーが空いていなかったの、開けてとか、子どもたちも、今度はこっちで遊びたいという風な機会になるかなというのが、やっているの実感です。

基本的に毎日やっているから見通しを持てるので、午前中まず来たら、開け閉めを子どもたちが決めます。そして9:30にお集まりをします。10~11時は課題保育だが、11~12時は先生が開け閉めを決めます。子どもたちがどこを開けるか決める。課題保育で昔でいう設定保育。3つ目が、先生が開け閉めを調整する。子どもたちが選んだ偏りを防ぐ。午後はその逆になります。先生が最初決めます。お帰りの後は、子どもたちが開けるか閉めるかを手を挙げて決めます。1回遊びを切り替えて、開いていないものを開けるようにするとか、先を見通すこと。お集まりがあるので、片づけるモードが出来ていることです。遊ぶのもちょっと種類が違います。好きなところへ行く場合と、先生が決める場合。先生が決められているので、片づけやすいものを選んだりしていると思います。

### 【年齢別保育と異年齢児保育】

Q3.1,2歳児室が同じ保育室のため、異年齢で関わり合うことで、子どもの成長に繋がる姿がよく見られます。その一方で、発達差があるため、2歳児がおままごとやブロック等で遊びこんでいる中、1歳児が入ることで玩具をバラバラにしたりと遊びを中断させてしまうような様子もよく見られます。そこから、噛みつきひっかきに繋がりそうなことも多々あります。2歳児が遊びを邪魔されて嫌という気持ちも、1歳児の興味があって遊びたいという気持ちも分かるため、このような場面の時にどのように対応すればよいかいつも悩んでいます。特に仕切り等もないため、もともとの室内環境の設定も難しいです。異年齢で関わり合うことの大切さが理解できながらも、それぞれの発達を踏まえて遊びを保障するためにはどのような環境、言葉かけをすれば良いのか教えていただきたいです。

2歳児で玩具の片付けの時間になっても遊びたい気持ちが強くなかなか片付けられない子がいます。5歳児や同じ2歳児が片付けるよう伝えようと手がでてしまい、怪我人が続出します。できるだけ子どもたち同士でと思い見守りたいのですが、声をかけてくれている子が怪我をしてしまうことがあるため保育者が介入してしまい、悩んでいます。

2歳児のところですが、悩ましいのは私の園が2歳児だけが特別にあるかという話です。脳の感受性のグラフから見ると分かるが、ピアソーシャルスキル 同年齢同士で徒党を組んで、集団を形成して遊ぶのが2歳児前後なんですね。2歳児だけを同じクラスにしているのは、そういう意味があるので、1歳児は集団を優先することがまだできない。昔は横並びプレイ、それぞれが影響しながらではあるが、共同してとか、誰かのために待つはない。2歳からできるので01を一緒にしても、2歳は分けた方がいいと思っているのは、そういう理由です。1歳児が入ると、おもちゃをばらばらにするのは、発達上保証してあげるべきですし、2歳児は子ども同士の中で、みんなで作るために壊したい気持ちを我慢する年齢なんですね。そこを一緒にするのは何ともいえない。私としては答えが困ります。1歳と2歳はそこが大きく違うのと、随意筋と言って、自分の意志で筋肉を動かせるのは、2歳児クラスですから、積んであるおもちゃをよけて通れるのは、2歳にならないと無理なんですね。1歳はぶつかったり、壊すことが多い。自分で行動をコントロールできませんからね。1,2歳だと壊しちゃうとか、飲み込んでしまうとか、我慢をしないで、ひっかき噛みつきが1,2歳が一緒だと、起きてしまうように思います。2歳になると、自分の意志で筋肉を動かせる

よくなるので、ボタンを自分で換えるようになるということで、着脱の自立ができる。2歳になると、服は自分で着れるようにするために、間違っていないかを見るために、全身を見る鏡を置く必要があります。1歳では、ボタンを替えたりするのは無理ですね。自分で筋肉を動かせるようになるので、食事の自立。トイレも1歳までは、先生が声を掛けないとなかなかいかないが、2歳になると自分で筋肉を収縮させて、我慢していくようになるのが、排せつの自立。汗をかいて気持ち悪いと、下着を着替えるようになるのが清潔の自立。筋肉を自分で動かせるようになることで、生活習慣の自立が始まる。集団を優先するようになるので、自分の欲求を我慢することができるというのが、2歳児から3歳の年齢なので、2歳児クラスです。1歳児クラスはできないので、物を作れば壊してしまうし、一緒になって作れないし、トイレも促さないといけないとかあるので、1,2歳が一緒は難しいだろうなと思ってしまう。その辺はそういう園も多いので、何とも言えないが、工夫をして0,1が一緒がいいと思います。自治体では、0だけ分けてというところが多いですね、感染症を含めて。それよりも発達のケアの仕方が違うので、2歳だけ別がいいと思います。その中で、発達を踏まえて1,2歳が合同の場合は、ケアの仕方を踏まえないといけません。どの発達にしているかを踏まえて、ケアを変えないといけません。壊すということは、飲んでしまうことでもあるので、随意筋と言って、筋肉を自由に動かすためには訓練をしないとダメだし、微細運動も入れないとダメ。紐通しとかだと、小さいので飲んでしまう可能性がある。それは分けないとまずいですね。生活は一緒かもしれないが、何かをするときは、分けないといけません。噛みつきやひっかけは、先生が間に入って遊ぶ、どちら側を向いてやるかとなった時に、真ん中に座ってやらないとまだまだ無理ですからね。異年齢の考え方とは、1,2歳の場合は違うと思います。

#### 【年齢別保育と異年齢児保育】

**Q4.2 歳児で玩具の片付けの時間になっても遊びたい気持ちが強くなかなか片付けられない子がいます。5歳児や同じ2歳児が片付けるよう伝えようと手がでてしまい、怪我人が続出します。できるだけ子どもたち同士で思い見守りたいのですが、声をかけてくれている子が怪我をしてしまうことがあるため保育者が介入してしまい、悩んでいます。**

片づけられない子は、逆に言えば、2歳の子は、集団の楽しさを知ったり、自分の筋肉を動かすことを知ったりする。もう一つ大事なことは、いろいろな言い方があって、家庭ではイヤイヤ期と言い方があがるが、園では自己主張期とか、なぜなぜ期と言って、やたら好奇心を持つ時期と言われます。遊びたい気持ちが強いのは、いいことです。遊びの欲求や、好奇心が強い。それを重視したら、少くく片づけられなくても、先生が片づければいいですね。ただし、暇そうな子に手伝ってもらうことは必要です。遊んでいたり、遊びたい気持ちが強い子は、片づける必要はないが、次にやらないといけないのに、片付けられない場合。うちでいうと給食は場所が違うので、一人で残されてしまう。そうすると、2歳児はみんなと一緒にやる楽しさを知るので、一人で残されると言って、ポツンと残されても平気なのは、発達障がいっぽい子ですね。普通だと、みんなと一緒に好きだが、違う場所に行くと気づいて、片づけ始めると思います。次に行っちゃったら、先生が片したらいいと思います。でも行かなくて片づけたい場合は、給食で中断しないとダメ、片づけなきゃダメの時は、片づけることを先に言うのではなくて、遊びたい気持ちが強いので、まず遊びたい気持ちに共感するべきですね。これは本当楽しいよねと共感して、そのあと、「食べてからにしよう！」とか、中断してやめさせるときは、遊びたい気持ちに共感した後に、付け加えないとダメですね。先に中断させて、やろうねを言ってもダメですね。他の子が注意すると手が出てしまうのは、1歳もそうだが、1歳を過ぎたころから正義感が強いと言われていて、割り込みを許せない子が1歳児でもいます。だけどそれに対して、反発する

子どもが多いので、そこでトラブルが起きます。どういう時に手を出るかわかっているの、そこは気を付けて、どちらも大切にすることです。あまりムキになって、注意することをするが、それを大げさにいい子だとしめないことです。子ども同士でやれることを少しずつやっていくわけなので、注意する子がいれば、そうだと気づいていくこともあるが、子どもが言ったからと言って、やめるわけないと思います。先生はケガをしないように、よく見ておくことです。その時の介入は仕方がないと思います。いつ頃介入する時期の問題ですね。これは試行錯誤するしかないですね。この子はもうちょっと早くとか、もうちょっと自分たち上手くできそうだったら、もうちょっと遅くするとか、介入の時期を遅くするかですね。

本稿は、2022年12月13日に開催した「第56回保育環境セミナー」のQ&Aの内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)